

地方取扱書目

四

水利農路

類	一六八六七	和書門
號	一四六一	
函	四一	
架	四	
冊	四	

内閣文庫	和書
一六八六七	一八二
四	五
冊	架

内閣文庫	番號	和	16867
	冊數	3	(3)
	函號	182	131

水利農路

全四

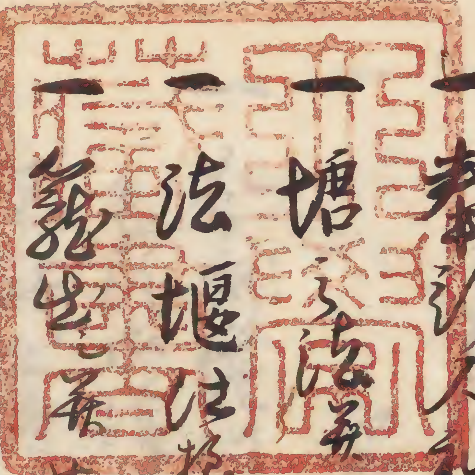


綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

堤川餘部

四

淺草文庫



一 奉沙人律文前書其下句法品之事

一 塘之法并道場は法振之事

一 法堰は法振之事

一 新出并道場之事

一 堤切所築道之事

一 梓は振之事



一 小川を除は振品之事

一 堤切所築之字以川倉牛梓之事

一 堤上之腰外腰懸之事

一 砂苗は振之事

右之面々令渡并殘存新設通具酒肴以下少々如前一切之用
法り及の書子石は其のこけ有留の上守の指一申付の事
一 松山願門迄送不可申申申申申申申申申申申申申申申申
男女好色一切法り及の事

一 見公沖用申相渡申申申申申申申申申申申申申申申申
沖威光私之妻水之々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
右之條、雖為一子、於法遠祀者

四封文如式目

一 想右右之限申用巡見之元見之、按地埋端見之申申申申申申
一 瑞村所之耳少少改國氣少少迎申之取國申適之申適之申
一 平所支魂之改法は重條同發書高札申申申申申申

一 當業並請下日備見之申申申申申申申申申申申申申申申申

一 自代大百姓之挨拶又百姓之々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
自代之挨拶之下部

附リ名之申事大々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
名之申事大々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

一 者、門山百姓水天宗之會子之申申申申申申申申申申申申申申申申
法重取箇之知屋一、其由表作申申申申申申申申申申申申申申申申
史會成公申申申申申申申申申申申申申申申申

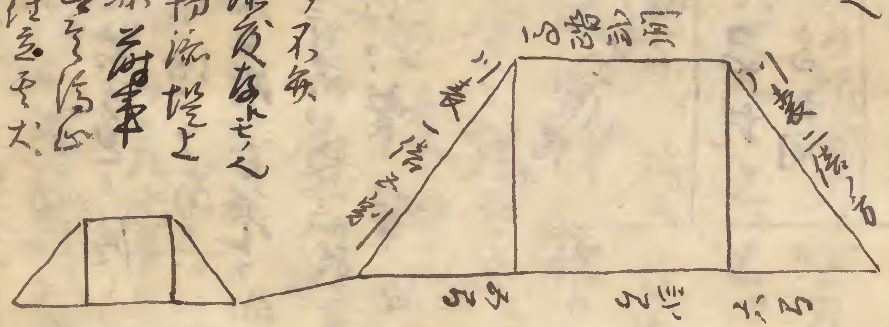
一 於御村訓状指申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
但一、申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

一 水所水吐吐或申用水松極申申申申申申申申申申申申申申申申
戸前東大折之申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
油水有申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
海山利申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
多之物申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

一 水而水除地申極尾申親親法法申申申申申申申申申申申申申申申申

親戚の如き川表の堤ノ中ヲ堤形リに及尺ノ塔形ノ草垣に築之
 事ト云新堤築ムルに之ノ法ハ川表一倍割川表二倍或川表
 一倍トは之芝ヲ附ル事古法ニ我水ノ為又直ニ之知ル川表ノ
 堤根石築ク事多ク之入龍腹付はる事ト云若竹石木自中ノ木
 口拔籠メテ之築ク間或尺程宛ト水テ至ル事不ハ石斗ヲ拾イ
 付直事ト云是之由事氏築ク事有兼法之又草竹一切を
 所ニ乱杭ヲ打テ杭ヲ波石斗拾付テ石腹付ニテ之堤ノ踏
 取ク事多ク人言テ是之踏付堤ノ堅ク由事古勿漏浦水良
 淺ク浦水飲水未至ニ付一防ノ質ニ急メテ官竹木芝之れ等本
 芝中ノ心當古取石斗場ノ事今付志ニ付テ是石斗拾テ波石
 堤ノ後活池中ノ大切ニ場ニ是ハ堤根付乱杭打清除テ下波
 重又柵はる事ト云波ニ堤根付板如新

馬路武間浦拾三間堤小川
 中川用大石是本曾
 川大田川中堤ハ行着石
 已間波或十二間宛有リ
 言ハ八直言即間ハ
 何為芝堤ナリ



惣百廿ハ後ノ災ノ不毎
 思ク田畑ヲ一歩モ切流負存之
 依ク堤根ヲ田畑切流堤上
 右腹ニ野菜麦杯前事
 あり堤ノ為ありクは信
 若勝ヲ自分ニ信事大
 是リハ前ノハ名別ナリ

堤ノ門堤中
 有ハハハハ
 在云々スハ
 委前ニ記ス

堤芝附取ハ石口能ニシテ芝拾テ踏ク堤形ハ
 芝堤ノ為面柳をサシ竹根ヲ拾テ是石斗拾テ
 芝拾テニ之ノ宛ニテ前入ニ之上ニ言ハ本事ノ
 是リハ八直言板ハ根付多ク本心堤ノ為若
 本也

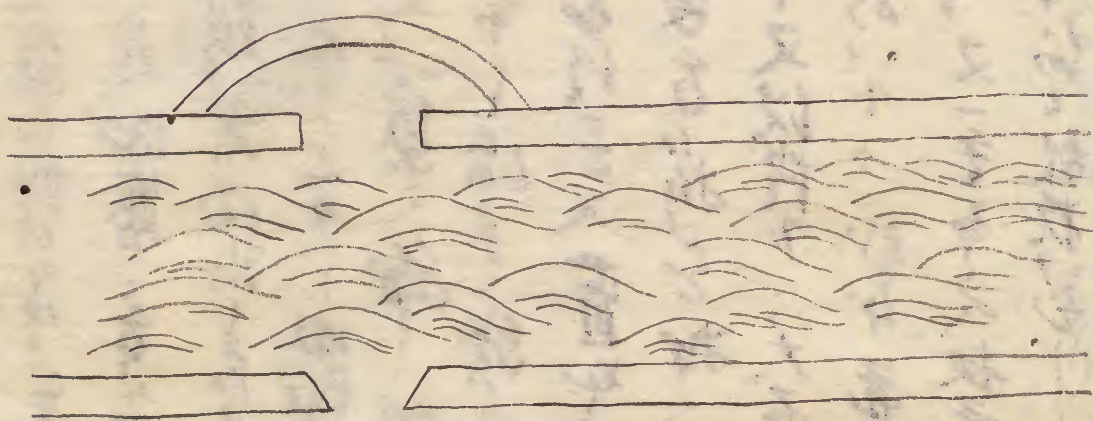
個川表竹木拾付テ向堤下ニ芝拾テ石斗拾テ川
 三ハ知ル川水中ニ流ル事障ルハ水十有之
 事ハ知ル海ノ時川上ノ堤ニ築不出ハ也

一 堤築の良砂地と迫る石を以て砂を築造するに於ては、
 其の砂は包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる
 時に、砂水に付、その砂の揚がる時、若し是れを以て
 包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる

一 堤の石が海水に浸り、押切等、石が日乾き、早味に築造するに於ては、
 の堤の石は包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる
 時に、砂水に付、その砂の揚がる時、若し是れを以て
 包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる

一 堤の石が海水に浸り、押切等、石が日乾き、早味に築造するに於ては、
 の堤の石は包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる
 時に、砂水に付、その砂の揚がる時、若し是れを以て
 包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる

新築の堤
 古法ナリ



海水に浸り、押切等、石が日乾き、早味に築造するに於ては、
 の堤の石は包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる
 時に、砂水に付、その砂の揚がる時、若し是れを以て
 包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる

切口諸如新

切口諸如新、築造するに於ては、
 の堤の石は包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる
 時に、砂水に付、その砂の揚がる時、若し是れを以て
 包に包み置き、潮事起ると砂が沖に揚がる

一 此様尾には場不色、の見立者へ一才一海に、其水の強つ南東を考ふ
 引中々、地底深き方、築立の事、定法之着地、多希、おははらふ、不叶、り、お
 さら、地、場、ゆ、か、お、は、ら、は、ら、根、強、つ、法、乱、板、を、整、キ、お、は、ら、を、不、場、ゆ、振、り、は、ら、お、
 是、金、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、一、つ、活、板、あり、是、お、は、ら、引、中、々、は、ら、は、ら、お、は、ら、
 弱、く、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、お、は、ら、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 く、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 筋、ま、く、能、ゆ、り、お、は、ら、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 位、お、は、ら、方、二、割、或、三、割、才、程、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 及、ゆ、り、お、は、ら、三、割、才、程、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 増、強、ゆ、り、死、ゆ、り、也、

但、様、尾、お、は、ら、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 用、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、川、面、り、回、振、り、相、應、ス、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 川、振、子、が、お、は、ら、お、は、ら、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 或、ゆ、り、山、川、ノ、右、川、ゆ、り、ゆ、り、お、は、ら、お、は、ら、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、
 川、ノ、合、流、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、

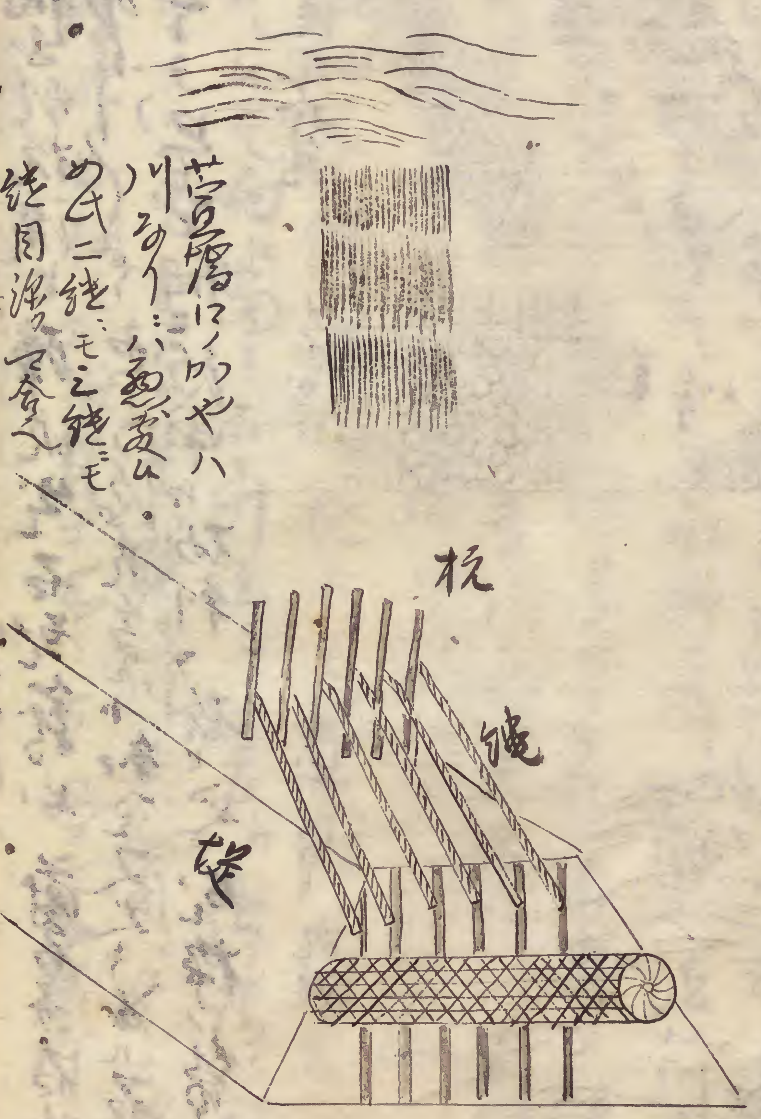
と、共、ゆ、り、川、上、口、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 上、お、は、ら、お、は、ら、一、把、り、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、
 板、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、
 七、草、ゆ、り、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、



但、鴨、折、し、は、ら、へ、ま、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、
 今、集、お、は、ら、時、鴨、折、し、は、ら、へ、ま、お、は、ら、
 河、邊、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、

川、ノ、流、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、
 後、中、流、川、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、
 次、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、お、は、ら、

一 出火ノ石籠ハ堅クハ時籠ヲ長ク作ラセテ先ナリテ石籠ヲ置ク
 左ノ底ハ堅クハ時籠ヲ長ク作ラセテ先ナリテ石籠ヲ置ク
 右ノ籠ニ石ヲ置キ後刻本ヲ一尺ニ記シテ刻入テヨクハ
 是ノ上ノ底ハ籠上ノ見ル時系行ヲ及テ之ノ外ニ取リ籠ヲ曲ム
 石ノ石ヲ置ク

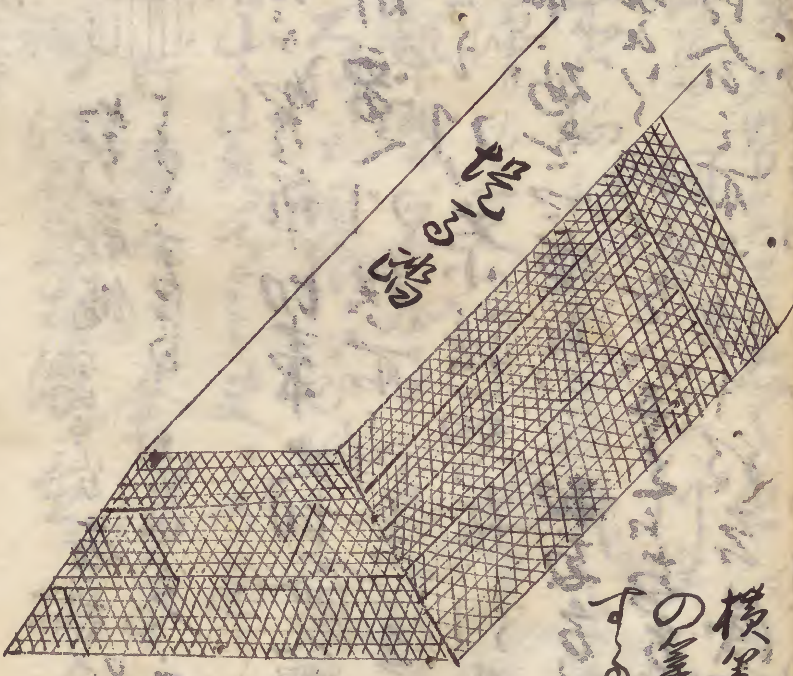
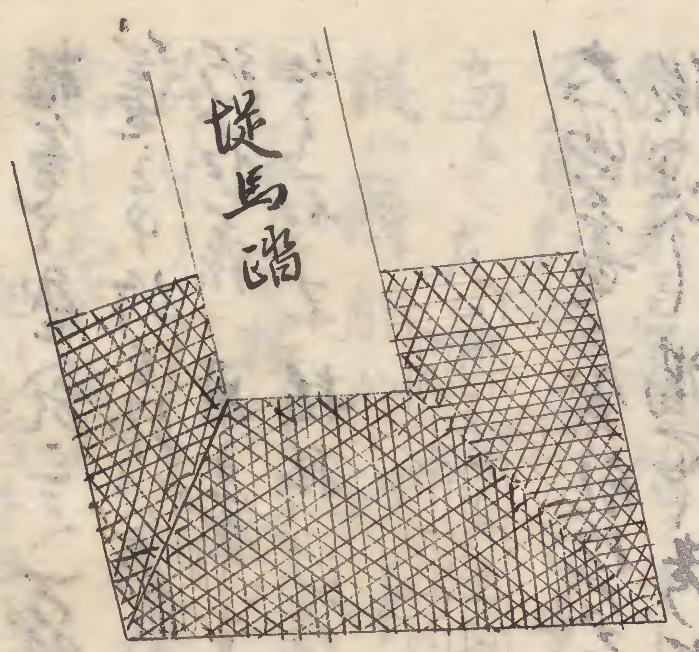


西ノ水溝ノ下
 籠ヲ入ル事
 大石ハ石籠ナリ

昔層ノ下ハ
 川ノ下ハ
 二籠ニモ之籠ニモ
 能目流ク事

横尾ノ火ノ籠
 横ノ籠ニ包ルアリ
 下ニ根籠ヲ置クハ
 料ノ下

横籠ニ底ハ石ノ籠
 ノ籠ニ包ル事
 下ノ下ノ下ノ下



此ニ横尾ノ籠ニ包ル事
 籠ニ包ル事
 出火ノ火ノ
 下ノ下ノ下ノ下

一 出火ノ籠ノ分ノ事
 出火ノ籠ノ分ノ事
 出火ノ籠ノ分ノ事
 出火ノ籠ノ分ノ事



左に塔ノ去ヲ取新堤ハ一節ニ

新堤ノ新堤

たふ

用水林

溝

此乃大分故堤危クハリ蓋々た之改
 堤ヲ層々有テ増高振：致る中
 新堤ニ巨尺ハ去テ運解至千後ハ古
 堤ヲ去テカワリ後々新堤ヲ高ク
 厚ク築テ水防子中解ヲ入テ
 堤ヲ有ニ此種切スル新堤ノ肝要

此乃大分故堤危クハリ蓋々た之改
 堤ヲ層々有テ増高振：致る中

如新山初見、水高りと
 田畑方、別分畑方と云
 早投下ノ方也、測ヲ定メ
 取テ用ルハ、此ノ如ク
 あり、水高、水高、水高、
 山の高、切テ、切テ、
 大山、高、高、高、
 平、平、平、



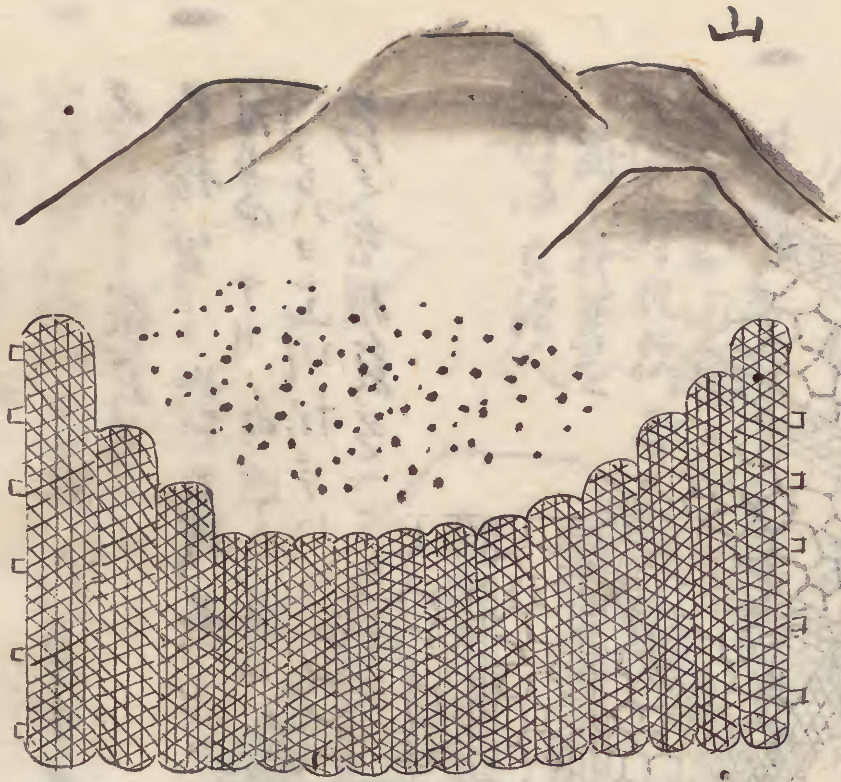
空地砂洲

新川節

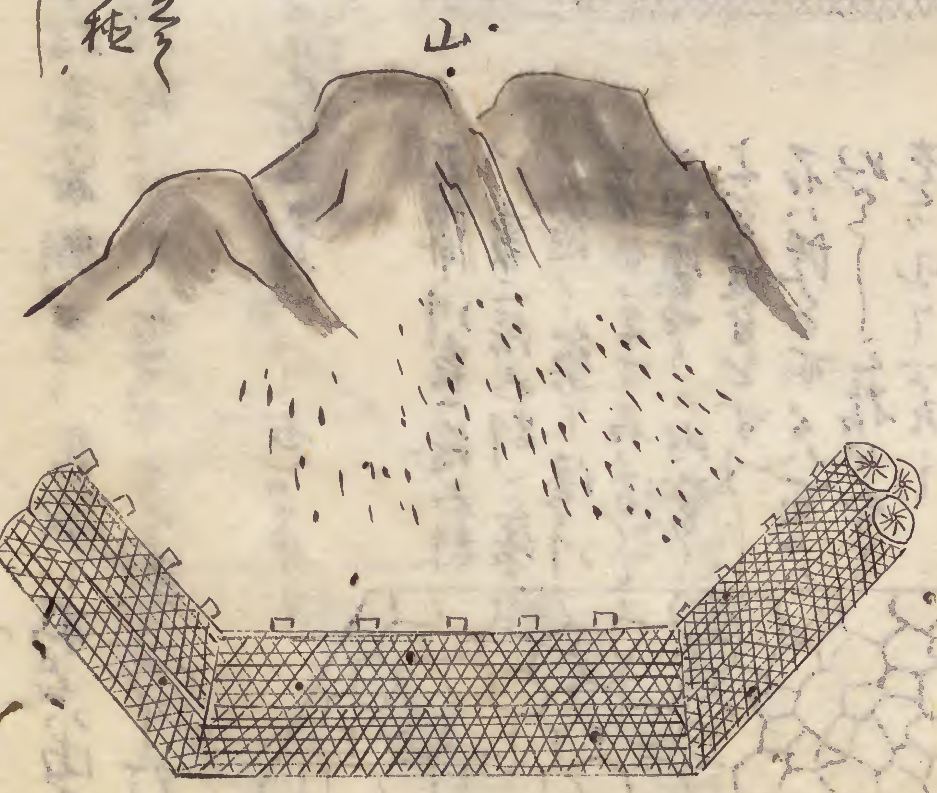
上田知

新川ノ水、新川節ヲ以テ、水高りと
 田畑方、別分畑方と云
 早投下ノ方也、測ヲ定メ
 取テ用ルハ、此ノ如ク
 あり、水高、水高、水高、
 山の高、切テ、切テ、
 大山、高、高、高、
 平、平、平、

如砂多し押おす可し
 等あり根掘りし
 土は根掘りし
 土は根掘りし



如砂多し押おす可し
 等あり根掘りし
 土は根掘りし
 土は根掘りし



又根掘り
 土は根掘り
 土は根掘り



如砂多し押おす可し
 等あり根掘りし
 土は根掘りし
 土は根掘りし

取山等語は但當橋中を至るに波浪を不取り流地波は甚き百石
七拾人一人は之を助合に杖持地以て交合宛に積り是入前元之也

濃別言波橋中ハ石を至るに故七八里拾里程モ川上ハ船方取合海之上川
村ハ人取合ハ大分多キ積リ年々為り合地是

石籠入是

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

袂石入是

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

去入是

平均降ハ拾人一人

但去取合波所積リ

但上川節村ハ山石を至るに故七八里拾里程モ川上ハ船方取合海之上川
村ハ人取合ハ大分多キ積リ年々為り合地是

関東之助公談

長訓

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

甲良川内節

右内

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

江良村

杖持

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

上高

川降

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

波引

地高

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

山

石

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

多

波

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

松植

橋水

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

點定

波

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

松波交

松

長

河

河

河

河

河

蛇

柱

河

河

河

河

河

多

波

是降ハ拾人一人ハ拾人一人

但去取合波所積リ

但去取合波所積リ

但去取合波所積リ

但去取合波所積リ

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

但戸

長厚

眼

名

三寸八分... 武拾系... 秋代... 右入用

一 浪計貫計百八拾五

板找本之代

計

是貫本百計拾五寸五分

梅長計尺板

厚字五寸

計板板百九拾六板寸

但長計尺

是板寸

七寸七分

是八百九拾五板寸... 板之計尺... 板之計尺... 板之計尺

計百七拾五寸八分

同本長計尺

五寸角

計本板之板寸五分

是板寸五分

是八百九拾五板寸... あり... 中... 是八百九拾五板寸... 是八百九拾五板寸

百九拾五板寸

同本長計尺

五寸角

計本板之板寸

但長計尺

計板之板寸五分

同本長計尺

八寸角

計本板之板寸

但長計尺

是八百計寸切寸板板寸

百九拾五板寸

同本長計尺

九寸角

計本板之板寸

但長計尺

計板之板寸八分

同本長計尺

幅五尺一寸

計本板之板寸

是八百計寸切寸板板寸

同本長計尺

八寸角

計本板之板寸

是八百計寸切寸板板寸

同本長計尺

幅五尺一寸

計板之板寸八板

但長計尺

限之指七也

江源流相代

以次

指之七也

二寸四方年令相代

以教八分

但厚計

志分 後用之而指目

是八八中一戸年一也

代 是九七

九也

以計教九指中、長二寸房 餘尾訂代

以二寸 六中 戸板合目

但中、後用之而指目代 是五三

指目

長七戸人 平源

以海十中

但中、後用之而指目代 是五三

是六 戸前指 是五三 緊

限之指七也

大工池料 飯茶

以工教計而計指之人

但百七人 分計各記

一 年指日名

又是抄

以人数計而計指之人

但一日七人 分計各記

五百指八人

指目古抄 抄入

内八指八人

抄入 抄入

百或指八人

前後條而 又元松人

七指八人

古本行分

一 年

奉抄入抄

是六指 日代 抄入 属 重 日 抄 入 日 抄 入 日 抄 入

限合或費八百

草二指

但六尺 後用之而指目

是六指 口 指 八 坪 年 抄 入

葉行

但定 後用之而指目

好儀

何分 後用之而指目

古板

長或 口 後用之而指目

有河國山新山村

我本訂令為大工泔料木の爲に入札爲波屋札之相極ノム古通々
 三内板の行々少朽故新以之也中ムお殘の方々古本古金物々々々
 退々入札中付お松代令と訂以之は若相造之波屋札ハ以是之揚上
 下ム以之

年月月日

誰判

宛所

右之由品定匠氣奥書判形之記文お海ム又兼浪高之取書判
 之ナリ記文之ナリお海波之有之

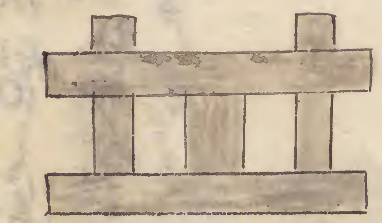
浦ありお並トハ門棒之事之者ナ端ありし在者門棒之波之白柱
 同敷之 中経之意々 杉之色之鏡本之 叩ノ揚之めたみみぬぬ之
 去持板之持板ハ記先之去持之外ありトハ印棒之事之甲蓋之
 上之板之事之履板之扇板之事之波ノ向ノハ門棒ノ下ノ板本之
 波ノありトハ甲蓋ノ印之お並ス柱之 去ナ端アリト云リお並トハ
 波ノ向ノのる 波之板本之 去之之之鏡本之 白柱ト云

是本トハ多井本あり之 兩神堂塔口ハ柱前後袖提ヲ塔口ニ書
 事ナリナリ

戸前之浪川春斗云危ナ所々
 前後ノ戸前之波子トナリ

如新印之有之釋ハ印ワシニ
 ロラニ棒本之ナリ内之記棒ハ内
 棒ト云リ
 波本ハ長ク如新ニスルナ
 去之板本云

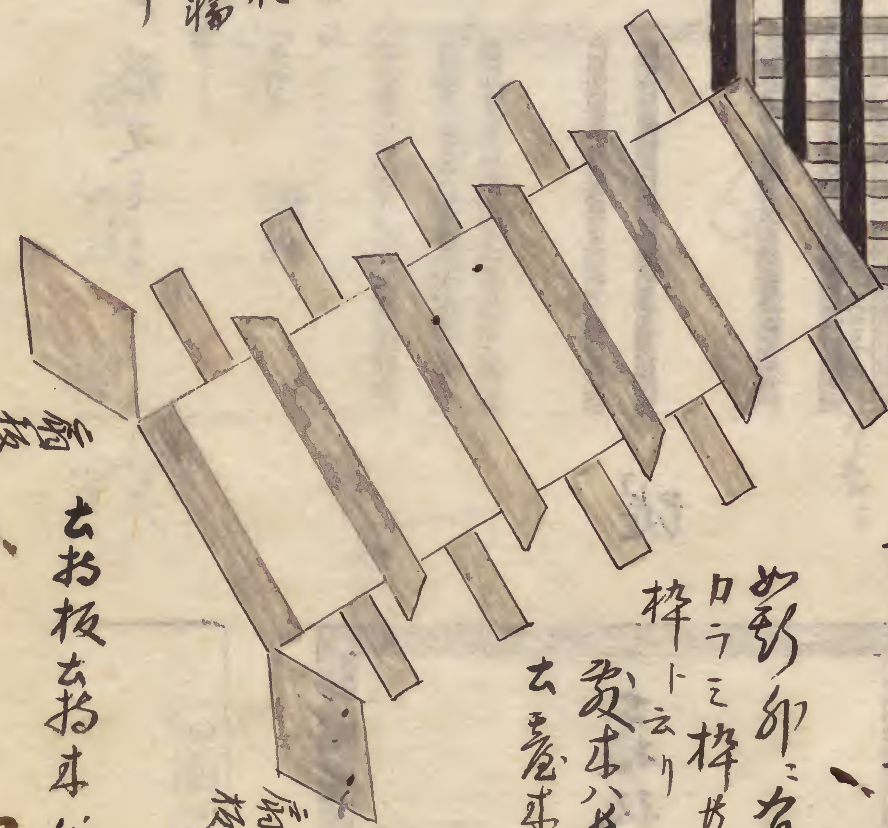
折板兩ヶ端アリ
 白柱何モ門棒之



折板
 白柱
 兩ヶ端
 アリ



地柱
 地柱



去持板去持本之爲極口有之

一 算

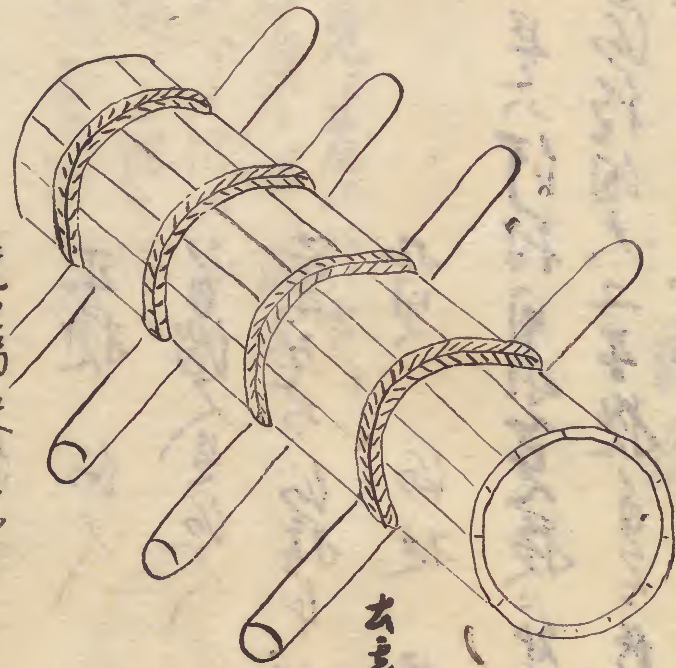
長

何

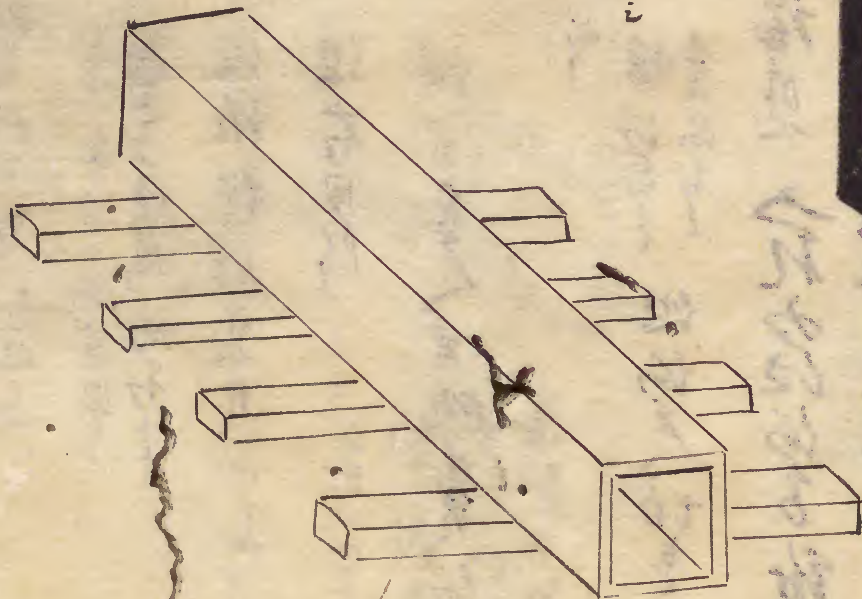
何

算

堤ノ幅狭キハ石トテ
石ヲシ、ミテスル
是戸前ニモ入



去



何

何

小
ト
ス

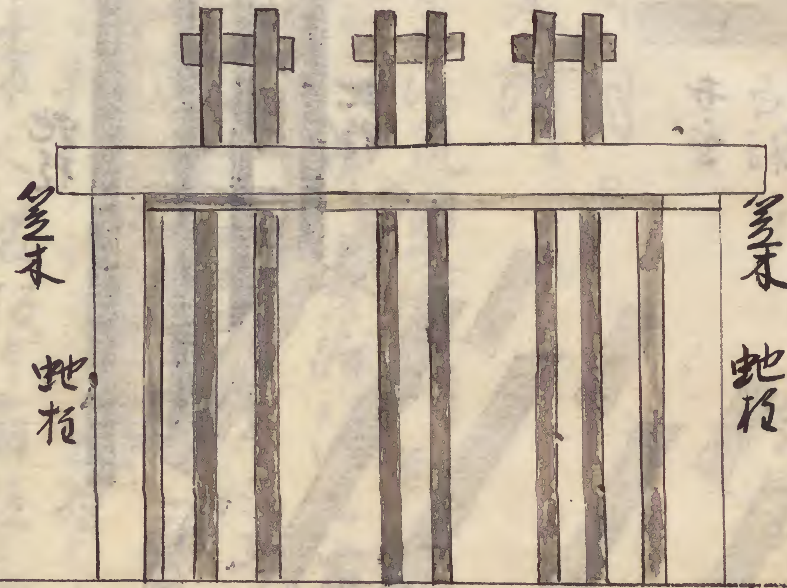
...

一 伏留

大
戸

戸

戸



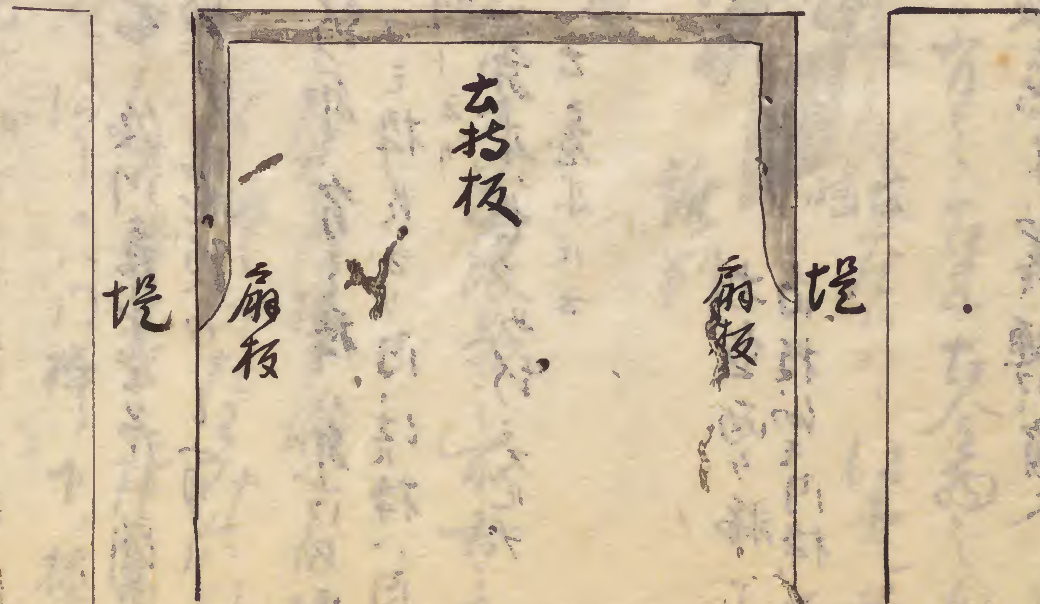
地

地

地

地

堤



去

扇

扇

堤

堤

右邊有増記の爲其想水の極橋は此の邊にありて其の邊に流交の邊にありて其の邊に
見ゆ此邊の橋を以て之の爲中を勿論極邊に流交の邊にありて其の邊に
右橋は此の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
所を極橋ト云テ又其の邊に流交の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
也。流交の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
又本曾の橋は此の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

一 長六川 橋二言

此橋は此の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

何村言極橋

是の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

此の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

一 橋を貴之百七拾六名あり

極橋本之代

是の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

何村言極橋

右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て
右の邊にありて其の邊に極大の橋に山附の川能達漸の橋を以て

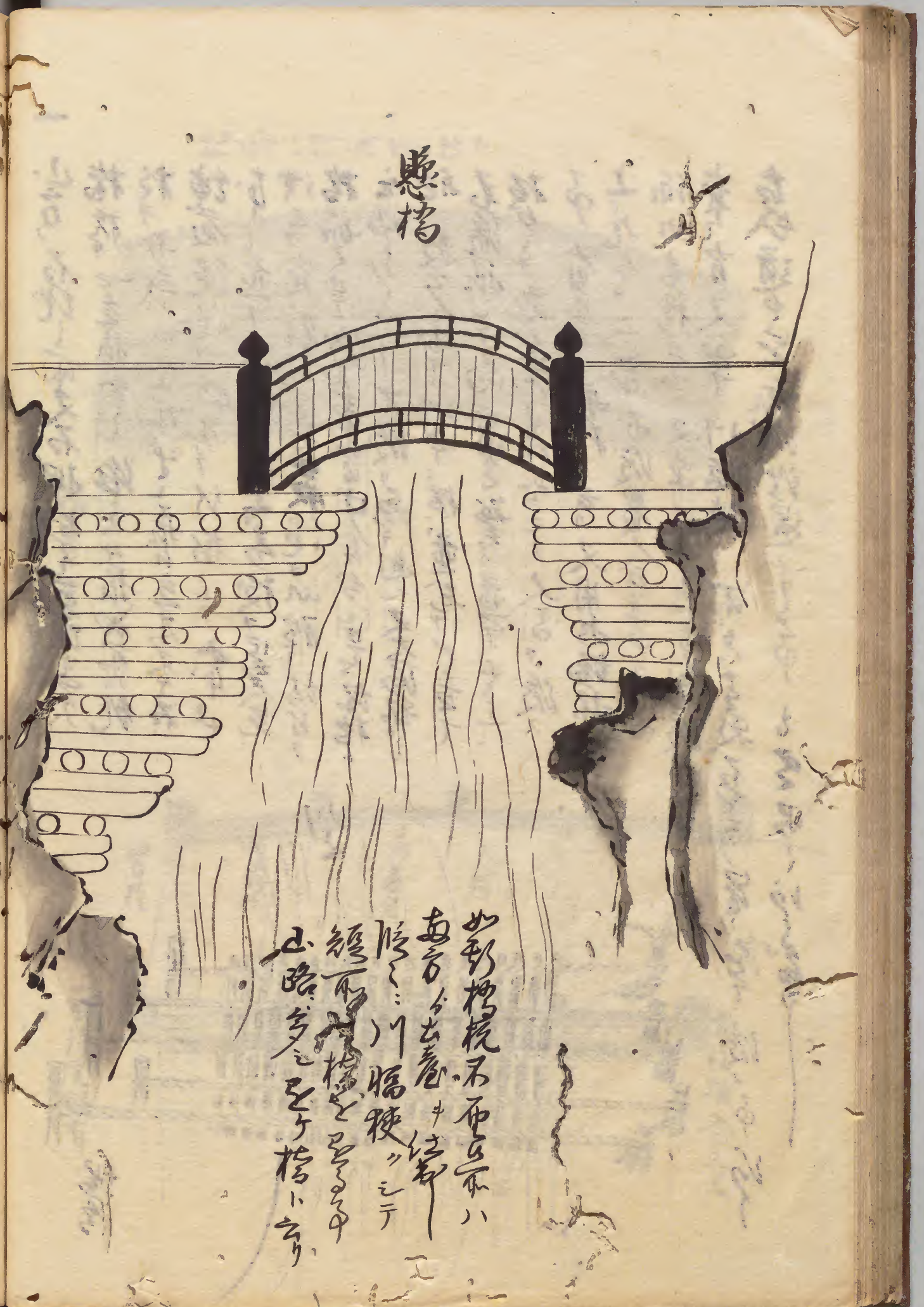
奉号月

定例

推判



行く八山片八谷三本及三
 結之上ニ牧本草草ヲ安
 之テ色語ニテ予アリ
 四行及ト云ヘリ



懸橋

如新橋概不布五平ハ
 西方ニ古倉ヲ結
 修ク川橋狭クシテ
 經下川橋と云々
 小路多ク之ヲ格ト云リ

若急如决堤故 冲系下乃裁不以 结受他子云余以汝也个
入用八水勘定云々之秋 案文想直是六气清之秋之改厨
以浚此越志也 秋之德云

言何能言

德系中法切系之事

系合何能言

心何能

乃其度系有月修云

四之斗中非入

右是之与度何子堤川 除有入分云云之身 乃其切事是今云矣
修系中云也 仍出体

辛号月

修到

表书

中修系以反

表书之修系合之云云云云

云到

水修系

請而中修系事

合何貫何能言

但馬修系
合何貫何能言

右是之何方水順堤川 除有是云 犹云云道中上下 結受馬定
又是何人云 仍川 秋受修系中云之云云 水勘定以上之云云 仍川
修系中仍出体

辛号月日

修到

表書通

表書表到 出几

誰反

德系中法切系事

一 德系中法切系事

結受子以是云

一 德系中法切系事

人是何人云

一 德系中法切系事

上下船堤川秋受

合德何能言何能言

合德何能言何能言

右是之苗

是之苗 是之苗 水順何水用是也

但馬修系 是之苗 通中上下馬

一人足 日引

合議の面文

右の通人言の法は為の法は人足受 法中不仍如年

年号月日

誰極也

誰及

何所

何所

右世の損とらて次の名をてし附て川我は船屋丸世根し是

一 地平地

去人寸六尺守り安は法或ハ六尺其用安は法為の法り重
川除世改はて用事人

糸間六尺守り安は法或ハ六尺其用安は法為の法り重

置各尺寸為算

用六尺為法而

實如法而得

六尺ハ 九二二 六尺寸ハ 八二六 五尺ハ 七二九 四尺寸ハ 六九二
三尺ハ 六一五 二尺寸ハ 五二八 一尺ハ 四六一 一尺寸ハ 三八四
一尺ハ 三令七六 五寸ハ 二令八 五寸ハ 一五二八 九寸ハ 一令七六九

田舎間六尺守り安は法或ハ六尺其用安は法為の法り重

用六尺為法而
實如法而得
各法如下文也

一 石籠之歩

六尺守り法

上音之用

置口徑

尺寸自

兼以長 口一尺守

間兼之

以田法

七之葉之 口却尺

以間法

五之葉之 得口三尺

各法也

六尺ハ 九二二 六尺寸ハ 八二六 五尺ハ 七二九 四尺寸ハ 六九二
三尺ハ 六一五 二尺寸ハ 五二八 一尺ハ 四六一 一尺寸ハ 三八四
一尺ハ 三令七六 五寸ハ 二令八 五寸ハ 一五二八 九寸ハ 一令七六九
七尺ハ 八二六 六尺ハ 七二九 五尺ハ 六九二 四尺ハ 六一五
三尺ハ 五二八 二尺ハ 四六一 一尺ハ 三八四 一尺寸ハ 二八八
寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八

七尺ハ 八二六 六尺ハ 七二九 五尺ハ 六九二 四尺ハ 六一五
三尺ハ 五二八 二尺ハ 四六一 一尺ハ 三八四 一尺寸ハ 二八八
寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八
七尺ハ 八二六 六尺ハ 七二九 五尺ハ 六九二 四尺ハ 六一五
三尺ハ 五二八 二尺ハ 四六一 一尺ハ 三八四 一尺寸ハ 二八八
寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八 寸ハ 二八八

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 実ホ用ク

置口徑

寸自口一尺寸

兼以長

間乘之

以四法知

七乘之

以間法

六二次

除之得

各法也

寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
九八七六	九八七六	九八七六	九八七六
一一八一	一一八一	一一八一	一一八一
寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
七口令六	七口令六	七口令六	七口令六
一二二七	一二二七	一二二七	一二二七

寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
八七七五	八七七五	八七七五	八七七五
一七五二	一七五二	一七五二	一七五二
寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
一七五二	一七五二	一七五二	一七五二
二七二七	二七二七	二七二七	二七二七

寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
一七五二	一七五二	一七五二	一七五二
二七二七	二七二七	二七二七	二七二七
寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
二七二七	二七二七	二七二七	二七二七
二九二七	二九二七	二九二七	二九二七

寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
一九七五	一九七五	一九七五	一九七五
二九二七	二九二七	二九二七	二九二七
寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸	寸自口一尺寸
二九二七	二九二七	二九二七	二九二七
六九一七	六九一七	六九一七	六九一七

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

一 石籠之法ハ田舎者ノノ 實ホ用ク

石堤川降植朽以下善請財良考民之踈良之否一取
掛几子古法也内之遠以治之古氏固義之之如堤川降
丈丈以立古地石城公報江平地方之根元之古大切可
執事子也



[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

